

診療所
待合室

緩和ケア・
終末期ケアについて



在宅でのケアに対する

大山町の取り組み

名和診療所 所長

佐々木 修治

2007年、国はがん対策推進基本計画において「すべてのがん診療に携わる医師が研修等により、緩和ケアについての基本的な知識を習得する」ことを目標として掲げました。

緩和ケアとは、死が避けられない患者と家族に対し、体や心のつらさを予防、軽減することで、生活の質を向上させることを目的としています。

私も2月20、21日に鳥取大学医学部附属病院で行われた講習会に参加しました。この講習会は一昨年度から、がん拠点病院（鳥取県では鳥取大学医学部附属病院、米子医療センター、鳥取県立厚生病院、鳥取県立中央病院）で年1回行われることとなっています。鳥取大学では2回目の開講ということで、大病院の院長から、医師1年目の研修医まで参加者は幅広い年齢層が集まりました。

研修内容はがん患者さんへの対応が中心でしたが、どのような病気の患者さんに対して役立つ充実したものでした。

医療者は病気、怪我から生命を守ることが使命ではありませんが、いくら医療が進歩しても、死は避けられないものです。従って医療者の重要な役割に、死を目前にした患者さんとその家族に、どのように接し、いかに苦痛を和らげることが出来るか、また残された時間をより良いものにするにはどうすればよいか、などを考えることも求められるようになってきました。

その中でも、残された時間が限られているときには、その時間をどこで過ごすかも重要な問題です。自宅で最期を迎えたいという希望を持っていても、いろいろな不安や家族の負担のため断念されている方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

現在大山町では、自宅で最期を迎えたいという希望の方に対して、どのような支援が出来るのかについて行政、民間を問わず多くの医療福祉機関や住民代表が集まり協議を行っています。町民の皆さんの役に立つシステムが作れるように十分に検討を重ねていきますので、広報などで協議内容をご覧になり、ご意見がありましたら保健課へお寄せ頂きますよう、よろしくお願いいたします。

◆問い合わせ先

保健課

☎0859・54・5206

人権のつぼ (58)

大山町人権交流センター TEL 0859-54-2286
大山町茶畑1077-3 FAX 0859-54-2413

六曜ってどんなもの…

「結婚式には仏滅はダメ、大安がいい」「葬式には友引を避けて」と、よく耳にします。この「仏滅」「大安」「友引」「先勝」「先負」「赤口」は暦に記載されている言葉で、六曜といえます。

六曜は二十四節気や干支などと同じように、暦注という暦に記入される事項の一つです。

また六曜は六輝とも言われ、その歴史は古代中国までさかのぼります。日本には室町時代に伝わってきました。その後中国では廃れましたが、日本では江戸時代後期、急速に民衆に広がっていききました。

普段の私たちの生活では、この六曜をあまり意識することはないと思います。しかし、結婚式や葬儀など普段と変わった特別な行事のときなど六曜が強く意識され、それらの日程を決

大安？ 仏滅？



めるうえで、多くの人たちにとって大きな影響力を与えています。

ところが辞書には「六曜は迷信である」と書かれており、実際科学的にも説明ができないものです。六曜がこのような科学的根拠のない迷信であることに気づかなければなりません。そして迷信を信じて行動するのを止めることが、さまざまな人権課題の解決にむけた大切な一歩となります。

◆問い合わせ先

人権推進課

☎0859・54・2286

友引？

